

冬季は病害の伝染源の除去や越冬害虫を減らす重要な時期です。また、発芽前の防除時期としても重要になりますので、本紙を参考に防除対策を徹底してください。また、冬季は防風樹の管理など園内環境を整える時期でもあります。作物の管理が忙しくなると、園内環境にまで手が回らなくなるので今のうちに作業を済ませておきましょう。

果樹全般

●耕種的対策（伝染源の除去や園内環境整備）

病虫害防除のために重要な冬季の作業（枯枝等の伝染源の除去、カイガラムシ類等の越冬害虫対策、防風樹管理等の園内環境整備など）について、下表にまとめました。チェックシートとして活用いただき、まだ終わっていない作業があれば2月のうちに作業を終わらせておきましょう。

表 冬季の耕種的防除対策チェックシート

作物名	作業項目	対象病虫害
カンキツ	<input type="checkbox"/> 罹病した枝や葉の除去 ※枝の病斑は可能な限り除去	かいよう病 (そうか病)
	<input type="checkbox"/> 枯れ枝、せん定枝の処分	黒点病
ナシ	<input type="checkbox"/> 落葉の処分 ※トラクターによる鋤き込み等	黒星病、葉炭そ病
	<input type="checkbox"/> いぼ病斑の除去	輪紋病
	<input type="checkbox"/> ボケ芽の除去	黒星病、黒斑病
	<input type="checkbox"/> 粗皮削り ※形成層近くまで削りすぎるとフタモンマダラメイガの寄生を助長するため注意	カイガラムシ類 シンクイムシ類
ブドウ	<input type="checkbox"/> 落葉の処分	べと病、褐斑病
	<input type="checkbox"/> 巻きひげの除去	黒とう病、晩腐病
	<input type="checkbox"/> 罹病した枝の除去	黒とう病、枝膨病
	<input type="checkbox"/> 粗皮削り	スカシバ類 カイガラムシ類
カキ	<input type="checkbox"/> 罹病した枝の除去	炭そ病
共通	<input type="checkbox"/> 伝染源の適切な処分（園外持ち出し、土中埋設など）	各種病虫害
	<input type="checkbox"/> 防風樹の管理	

露地カンキツ

●カルシウム (Ca) 資材の施用 (果実腐敗対策)

果実腐敗は、収穫前の殺菌剤散布だけで防ぐことが難しく、果実の体質を強化して腐敗しにくくすることが重要です。そのため、今の時期に完熟たい肥およびカルシウム (Ca) 資材の施用を行いましょ。完熟たい肥の施用は健全な根を増やすことを目的とし、カルシウム (Ca) 資材の施用は、植物の細胞の強化 (果実体質の強化) につながります。ただし、カルシウム (Ca) 資材は、土壌の pH 等によって施用量等が異なるので、地域の営農指導員・普及指導員に相談してください。

●貯蔵中の果実腐敗対策

貯蔵中の果実については、適切な温湿度管理を徹底するとともに、腐敗果実の除去を行いましょ。腐敗果実を貯蔵庫内やその周辺に放置すると、胞子が飛散して腐敗が広がります。腐敗果実は見つけ次第取り除き、土中に埋めるなどして適切に処分してください。

●かいよう病対策

発芽前～5月が本病の重要な防除時期です。発芽前の防除は特に重要で、昨年本病が発生した園や、風当たりが強い園、本病にかかりやすい品種 (中晩柑類) の植栽園、幼木園、高接ぎ園は、発芽前の2月下旬～3月上旬に IC ボルドー66D 60倍等を必ず散布してください。

ただし、発芽直前の散布は落葉を生じやすいため、樹勢が低下している樹への銅剤散布は控え、これらの樹は樹勢の回復に努め、生育期に防除を徹底しましょ。

ハウスミカン

●灰色かび病対策

満開から落弁期を迎えた作型では、ナリア WDG 2,000倍等にトルキヤップ α 1,000倍を加用して散布しましょ。この時期に多湿状態が続くと発生を助長するため、施設内の換気をよくし、過湿にならないよう努めましょ。また、樹を揺するなどして残った花弁を落としてください。

ナシ

●白紋羽病対策

本病の対策がまだの場合は、発病樹とその周辺の未発病樹に対してフロンサイド SC のかん注処理を行います。発病樹には1樹あたり 500 倍を 50～100ℓ、未発病樹には1樹あたり 1,000 倍を 100～200ℓ目安に処理しましょう。

本処理の効果は2年程度持続しますが、その後は再発する場合があります。特に、発病樹では根部を掘り起こして発病の有無を確認し、発生が確認された際は再処理してください。

キウイフルーツ

●かいよう病対策

収穫後から発芽前までが本病の主要な感染時期であり、この時期の定期的な防除が重要です。このため、発生の有無に関わらず IC ボルドー66D 50 倍等を1か月間隔で散布します。

このほか、せん定等の作業は①健全園・健全樹から始める②ハサミやノコなどは樹ごとに消毒する、③枝や幹から白色～赤褐色の樹液漏出が見られた場合は、発見次第切除するようにしましょう。なお、③について、「ヘイワード」の場合は、樹液漏出箇所から褐変がみられなくなる位置まで戻って枝を切除しますが、幼木や別の品種では切除する程度が異なりますので、その場合、指導機関に相談してください。

モモ・スモモ

●モモ萎縮病、スモモふくろみ病対策

出蕾前に石灰硫黄合剤7倍を散布します。出蕾後の防除では効果はほとんど期待できないので、散布時期を厳守してください。なお、散布ムラがあると防除効果が低下するため、風がない日（時間帯）に枝先までしっかりかかるよう丁寧に散布してください。

また、石灰硫黄合剤は、マシン油乳剤との近接散布ができない（1か月以上散布間隔を空ける必要がある）ため、1月にマシン油乳剤を散布した場合は、代替剤としてモモでは、キノンドー水和剤 40 500 倍やチオノック（トレノックス）フロアブル 500 倍、スモモではチオノック（トレノックス）フロアブル 500 倍等を使用してください。